

新まちづくり計画 (H16 ~ 18) 施策総括調書 (単位:千円)

基本目標	3	世界に誇れる環境の街さっぽろ					
重点戦略課題	3	北国らしいゆたかな暮らしの実現					
施策の基本方針	<p>冬の遊びやスポーツをはじめ市民が雪に親しみ、楽しむ機会を大切にしながら、一年を通して市民が快適に生活できる、北国らしい暮らしを創造するとともに、雪を貴重な資源という視点で見つめ直し、上手に活用する取り組みを進めます。</p> <p>冬の暮らしを支える雪対策については、市民・企業・行政が連携しあいながら、地域特性に応じて効果的・効率的に進めます。</p>						
計画事業の実施状況							
施策番号	事業名	計画事業費	実績事業費				進捗率
			16年度(決算)	17年度(決算)	18年度(決算)	合計	
1	冬の生活文化情報発進事業	10,000	0	6,000	4,000	10,000	100
1	冬の公園利用活性化事業 ¹						
1	世界冬の都市市長会議事業	22,000	5,165	11,991	6,341	23,497	106.8
1	世界冬の都市市長会共同事業	9,000	3,072	3,178	2,806	9,056	100.6
1	「ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo」開催費負担金〔再掲〕	36,000	12,274	12,624	11,275	36,173	100.5
2	2007年FISノルディックスキー世界選手権札幌大会の開催	5,384,000	331,671	1,358,079	3,729,786	5,419,536	100.7
2,3	ウインタースポーツフェスタ in 大倉山	5,000	1,110	1,975	1,979	5,064	101.3
2	ウインタースポーツ振興事業	3,000	0	1,000	1,798	2,798	93.3
3	都心北融雪槽活用雪冷熱エネルギー利用実証運転事業〔再掲〕(終了)	13,000	4,371	4,076	6,903	15,350	118.1
4	歩道の凍結路面対策による歩行環境の改善 ²	177,000	32,488	33,515	29,823	95,826	54.1
4	地域に密着した雪処理の推進 ³	512,000	466,046	515,085	116,117	1,097,248	214.3
4	福祉除雪事業〔再掲〕	266,000	79,816	79,332	77,772	236,920	89.1
<p>1 「冬の公園利用活性化事業」は、重点戦略課題1の「水とみどりにふれあう活動支援事業」の再掲である。</p> <p>2 歩道用凍結防止剤散布専用車の購入(2台)先送りなどにより、事業費が減少した。</p> <p>3 平成16、17年と平年にない気象により、パートナーシップ排雪の実施件数が増加したことにより、事業費が増加した。</p>							
追加・補強事業の実施状況(参考)							
1	冬の公園利用活性化事業	-			1,483	1,483	-
		-					-
		-					-
主な施設、サービス等の整備水準							
施策番号	項目	15年度末(現状)	16年度末(実績)	17年度末(実績)	18年度末(実績)	18年度末(目標)	
3	雪冷熱導入量	2,390 ^ト	3,580 ^ト	3,280 ^ト	5880	6,000 ^ト	
3	雪冷熱導入によるCO ₂ 排出削減量	45.0 ^ト	65.9 ^ト	66.8 ^ト	100.9	115.4 ^ト	
4	凍結防止材の歩道散布	150km	250km	250km	250km	350km	
4	歩道用砂箱設置	422個	522個	600個	600個	600個	
主な取組内容							
16年度(実績)		17年度(実績)		18年度(実績)			
施策1	北国らしい暮らしの創造						
	<p>冬季公園利用イベントの開催(310件)</p> <p>世界冬の都市市長会実務者会議、小委員会活動に参加</p> <p>「JATA世界旅行博2004」に世界冬の都市市長会が共同出展</p> <p>「ミュンヘン・クリスマス市」の開催(出店30ブース)来場者38.1万人</p>	<p>冬の生活文化や雪対策の情報を発信</p> <p>冬季公園利用イベントの開催(284件)</p> <p>世界冬の都市市長会の実務者会議、本会議、小委員会に参加</p> <p>「JATA世界旅行博2005」に世界冬の都市市長会が共同出展</p> <p>「ミュンヘン・クリスマス市」の開催(出店30ブース)来場者40.1万人</p>		<p>冬の生活文化や雪対策の情報を発信</p> <p>「旭山冬のフェスティバル」を市民団体との共催で開催。冬の公園利用実態調査を実施</p> <p>世界冬の都市市長会実務者会議、小委員会に参加</p> <p>「北京国際旅遊博覧会」に世界冬の都市市長会が共同出展</p> <p>「ミュンヘン・クリスマス市」の開催(出店30ブース)来場者44.6万人</p>			

新まちづくり計画（H16～18）施策総括調書

基本目標	3	世界に誇れる環境の街さっぽろ		
重点戦略課題	3	北国らしいゆたかな暮らしの実現		
主な取組内容				
16年度（実績）		17年度（実績）		18年度（実績）
施策2	ウィンタースポーツの活性化			
	<p>ノルディックスキー大会基本計画策定、関係機関等との連携体制の構築 ノルディックスキー大会広報活動の実施 白旗山競技場の改修実施設計、環境調査 宮の森ジャンプ競技場実施設計 大倉山ジャンプ競技場を遊び場に活用（イベント参加者：1,800名）</p>	<p>ノルディックスキー大会の開催準備 ノルディックスキープレ大会の開催 白旗山競技場、宮の森ジャンプ競技場の改修 大倉山ジャンプ競技場を遊び場に活用（イベント参加者：4,266名） ウィンタースポーツ振興について実践研究を行い、各種モデル事業を通じて振興のための関連情報を収集</p>	<p>プレ大会の検証をもとに本大会を開催（H19.2 約9万人が観戦） 白旗山競技場、宮の森及び大倉山ジャンプ競技場の改修・整備 大倉山ジャンプ競技場を遊び場に活用（参加者規模：3,592名） ウィンタースポーツ振興をテーマとした実践研究を継続 「札幌市立中学校スキー授業支援事業」を実施</p>	
施策3	多雪・寒冷な気候特性の積極的な活用			
	<p>都心北融雪槽活用雪冷熱エネルギー利用実証運転 雪冷熱導入量 約2,000トン 雪冷熱エネルギーの供給量 750GJ 省エネルギー効果 70,000kWh 二酸化炭素排出削減量 35トンCO₂（削減率 84%） 大倉山ジャンプ競技場を遊び場に活用【再掲】</p>	<p>都心北融雪槽活用雪冷熱エネルギー利用実証運転、基礎データの収集・解析、最適な運転方法の検討、課題の解決策の試行・検証、維持管理コスト削減のための具体的なシステム検討などを実施 大倉山ジャンプ競技場を遊び場に活用【再掲】</p>	<p>都心北融雪槽活用雪冷熱エネルギー利用実証運転、基礎データの収集・整理、省エネルギー・CO₂削減効果の評価を実施。平成19年度実用化に向けシステムを改修を実施 大倉山ジャンプ競技場を遊び場に活用【再掲】</p>	
施策4	地域の特性に応じた効果的な雪対策の推進			
	<p>滑り止め材の歩道散布延長の増強 100km増 歩行者用砂箱増設 100個増 地域密着型雪処理施設整備（月寒公園） パートナーシップ排雪（1,121件） 福祉除雪の実施「実施世帯数：3,825」 利用世帯の満足度：92.4%</p>	<p>歩行者用砂箱増設 78個増 地域密着型雪処理施設整備（伏古公園北） パートナーシップ排雪（1,170件） 福祉除雪の実施「実施世帯数：3,948」 利用世帯の満足度：91.5%</p>	<p>滑り止め材の歩道散布 250km パートナーシップ排雪（955件） 福祉除雪の実施「実施世帯数：3,971世帯」 利用世帯の満足度：（集計中）</p>	
評価（成果）		課題		
施策1	<p>・広報さっぽろ12月号折込誌を利用し、子供からお年寄りまで世代を通して冬の遊びやスポーツに関する情報の提供や、「旭山冬のフェスティバル」の開催によって、市民が雪に親しみ、楽しむことへの関心を高めた。世界冬の都市市長会は、会員都市の優れた事例を学びあい、まちづくりのヒントを得る良い機会となったほか、冬の都市の視点から地球温暖化問題で連携し、国際貢献や本市の国際地位向上に資するものとなった。「ミュンヘン・クリスマス市」では、市民が外国人と触れ合える貴重なイベントとして好評を得た。</p>	<p>・冬の遊びやスポーツに関するイベント情報だけでなく、冬の遊びや高齢者の健康づくりなどの活動事例の情報を収集し、効果的に情報を提供する必要がある。世界冬の都市市長会の活性化を図るため、会員都市の拡充、他の国際組織と連携、及び市民への広報活動の拡充が必要。「ミュンヘン・クリスマス市」を効率的に実施するため、運営主体・運営方法など、今後のあり方について検討が必要。</p>		
施策2	<p>・ノルディックスキー札幌大会に向け、施設の改修・整備を予定通り終え、プレ大会の検証を基に本大会を成功裏に終了できた。ウィンタースポーツフェスタin大倉山は、ジャンプ台を間近で観たり体験してもらうことでジャンプ競技への関心を高めるとともに、冬のレクリエーション体験を通じて冬の遊びの関心も高めることができた。ウィンタースポーツ振興についての実践研究では各種モデル事業を通じて市民の意識、動向に関する情報を得た。</p>	<p>・ノルディックスキー札幌大会が終了したが、この大会の効果を札幌におけるウィンタースポーツの活性化に繋げていくことが求められる。ウィンタースポーツフェスタin大倉山では、ジャンプ台を使いさらなる冬のスポーツへの関心を高める工夫が必要。また、民間を含めた関係機関と連携し、新たなPR方法の検討が必要。スポーツ振興計画の実行計画化のなかでの「ウィンタースポーツ」の位置づけ、社会情勢との整合等の理論研究も含めた調査研究の継続が必要。</p>		

新まちづくり計画（H16～18）施策総括調書

基本目標	3	世界に誇れる環境の街さっぽろ
重点戦略課題	3	北国らしいゆたかな暮らしの実現

評価(成果)		課題
施策3	<ul style="list-style-type: none"> 雪の冷熱エネルギー利用実証運転は順調に進み、省エネルギー・CO₂削減効果を検証するなど、貴重な基礎データを得ることができた。 ウインタースポーツフェスタin大倉山は、普段、市民でも立ち入ることができない大倉山ジャンプ台を利用したイベントであり、観光資源としての可能性が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 雪冷熱利用の実用化に向けた市・民間事業者の協力体制を構築する必要がある。 ウインタースポーツフェスタin大倉山を観光資源としてより一層PRするために、観光客が利用しやすいイベント運営やPRをいかに強化するか検討が必要。
施策4	<ul style="list-style-type: none"> 冬期歩行環境は、歩道散布延長の増強や砂箱の増設によって改善が図られた。パートナーシップ排雪は、気象条件によりその実施件数が大きく左右されるが、市民の要望に対応した。福祉除雪は、利用世帯の満足度が高く成果が上がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 冬期歩行環境の改善には、市民の協力が不可欠であり、多くの市民の協力得る取り組みの検討が必要。パートナーシップ排雪実施件数は、年々増加傾向にあり、これに対応するためには財源の確保が必要であり、加えてパートナーシップ排雪については、搬出量の抑制や負担割合の見直しについて市民との議論が必要となっている。福祉除雪は担い手である地域協力員のすそ野を広げ、地域での理解を一層深めていく必要がある。

成果指標等の動向

項目1	冬期間の来客数[11～3月の観光客] (万人)	項目2	ウインタースポーツ[冬季ジャンプ大会]の観客数 (万人)																																										
	<table border="1"> <tr><th>年</th><td>H14</td><td>H15</td><td>H16</td><td>H17</td><td>H18</td><td>H18</td></tr> <tr><th>来客数(万人)</th><td>431</td><td>415</td><td>445</td><td>454</td><td>485</td><td>490</td></tr> <tr><th>属性</th><td>現状値</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>目標値</td></tr> </table>	年	H14	H15	H16	H17	H18	H18	来客数(万人)	431	415	445	454	485	490	属性	現状値					目標値		<table border="1"> <tr><th>年</th><td>H14</td><td>H15</td><td>H16</td><td>H17</td><td>H18</td><td>H18</td></tr> <tr><th>観客数(万人)</th><td>5.3</td><td>5.5</td><td>4.1</td><td>4.1</td><td>5.1</td><td>6.0</td></tr> <tr><th>属性</th><td>現状値</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>目標値</td></tr> </table> <p>H16は大会当日の天候に恵まれなかったこと、H17はオリンピックイヤーであり、内外のトップ選手が参加しなかったことで、観客数に影響があったと考える。H18はルディック大会の開催で現状値と同程度に回復した。</p>	年	H14	H15	H16	H17	H18	H18	観客数(万人)	5.3	5.5	4.1	4.1	5.1	6.0	属性	現状値					目標値
年	H14	H15	H16	H17	H18	H18																																							
来客数(万人)	431	415	445	454	485	490																																							
属性	現状値					目標値																																							
年	H14	H15	H16	H17	H18	H18																																							
観客数(万人)	5.3	5.5	4.1	4.1	5.1	6.0																																							
属性	現状値					目標値																																							
項目3	市民の協力による歩道への滑り止め材の散布 (%)	項目4	市民とのパートナーシップによる除排雪 (件)																																										
	<table border="1"> <tr><th>年</th><td>H14</td><td>H15</td><td>H16</td><td>H17</td><td>H18</td><td>H18</td></tr> <tr><th>散布率(%)</th><td>36</td><td>31</td><td>32</td><td>26</td><td>39</td><td>50</td></tr> <tr><th>属性</th><td>現状値</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>目標値</td></tr> </table>	年	H14	H15	H16	H17	H18	H18	散布率(%)	36	31	32	26	39	50	属性	現状値					目標値		<table border="1"> <tr><th>年</th><td>H14</td><td>H15</td><td>H16</td><td>H17</td><td>H18</td><td>H18</td></tr> <tr><th>実施件数(件)</th><td>1,026</td><td>1,023</td><td>1,121</td><td>1,170</td><td>955</td><td>1,100</td></tr> <tr><th>属性</th><td>現状値</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>目標値</td></tr> </table> <p>H16、17は平年になく気象により、パートナーシップの実施件数が目標値を上回ったが、H18は、積雪量が少なく取り消し件数が90件となり目標を下回った。</p>	年	H14	H15	H16	H17	H18	H18	実施件数(件)	1,026	1,023	1,121	1,170	955	1,100	属性	現状値					目標値
年	H14	H15	H16	H17	H18	H18																																							
散布率(%)	36	31	32	26	39	50																																							
属性	現状値					目標値																																							
年	H14	H15	H16	H17	H18	H18																																							
実施件数(件)	1,026	1,023	1,121	1,170	955	1,100																																							
属性	現状値					目標値																																							

指標 = (町内会・学校・企業への砂配布量) / (+ 歩行者用砂箱への砂の補充量)

指標が伸びないのは、の量は年々伸びているが、の砂の補充量もの伸び率より大きく伸びているためである。の伸びが多いのは、計画を前倒して歩行者用砂箱を増設したためである。

また、H17の数値が低いのは、の量が、の量より減少率が大きかったためである。これは、例年になく気温が低く、歩行者用砂箱の散布先である幹線道路に比べ、の散布先である住宅地の道路で、滑り易い路面の発生が例年より少なかったためである。

滑り易い路面での転倒事故による救急搬送件数
 H16: 1,009件 H17: 689件 H18: 876件

成果指標から見た重点戦略課題の評価

成果指標の達成度からは、雪が貴重な観光資源として活用されていること、市民・企業・行政が連携して雪対策が行われていることが評価できるが、ウインタースポーツの関心の高まりについては、評価が低い。

全体評価としては、当重点課題が様々な事業で構成されており、四つの指標で評価できない事業が多いことから、指標の達成度と指標で評価できない事業の実施状況とを加味して行うべきである。当課題は、二つの指標が達成、ほぼ達成していることと、指標で評価できない事業を着実に実施したことから、北国らしい豊かな暮らしの実現に寄与したとものと考えられる。